



## 専門学校で

2025年には700万人というボリュームを持つ団塊世代が75歳以上に突入し、少子高齢化がさらに深刻化を増していくことが予想されています。さらに2025年には新潟県内の介護人材が3500人不足すると言われており、現状介護人材が不足している課題があります。そこで注目されているのが外国人介護士です。

## 学ぶ



新潟医療福祉カレッジでは「介護」ビザの許可を得るために多くの留学生が学んでいます。「介護」ビザは、外国人の方が国家資格の介護福祉士を取得すると日本での就労ビザで働くことが出来る制度で、就労系在留資格のひとつです。技能実習

## 外国人留学生

生が増えている中でリーダー的な存在が必要ということで注目されています。リーダー養成なので時間がかかるデメリットはありますが、永住でき、介護福祉士として働けるというメリットは高いです。現場のニーズも高く、当校の留学生は新潟県内の介護施設で週末働きながら、学校に通って

介護の知識や技術を学んでいます。県内でも留学生を必要としている介護施設が増えています。様々な分野で活躍する留学生が増える中で、人材が不足する介護業界を支える存在です。

また当校で学ぶ留学生は非常に真面目で、学ぶ意欲が高いです。日本語の理解がまだ未だの学生もいますが、何より素直でいつも笑顔で挨拶してくれるなど好感の持てる学生ばかりです。そして、彼らの優しさや思いやりのある対応は利用者の方を必ず幸せにしてくれると思いますし、日本人学生も見習うべき点だと感じています。また現場で働いていることもあり、介護技術の習得はスムーズです。ぜひ1度当校に来ていただき、留学生の優しさや努力している姿を見てもらえればと思います。

そしてこれからの介護業界は外国人留学生が現場に多くいる時代になりつつあります。その中で、新潟医療福祉カレッジでは、日本人学生と留学生が交流する機会もあります。お互いの文化や生活の違いを尊重しながら、同じ介護福祉士として現場で活躍できる人材に成長してもらいたいです。

この度、「新潟の介護の仕事がよくわかる総合ガイド」介護事業所レポート取材に2名の学生が同行させていただきました。施設実習とは違い、取材をするってどうすれば良いのか初の試みでどうなることかと思いましたが、学生と一緒にいることで、和やかな雰囲気の中で取材ができました。さらにスタッフさんからもこれから介護の未来を担う人材である学生に対して熱意を持って答えてくれましたし、また、学生が聞くことで構



## 介護事業所の取材に学生が同行

えることなく、自然に本音を引き出していたように思いました。学生自身も、現場で働く人の介護観を聞き、とても刺激を受けていました。やはり「生の声」は響きますね。専門学校の意味は即戦力の育成です。そのためには現場とのつながりは大切で、この試みは、双方にとって非常に有意義な時間になり、今後も継続していきたいです。(板垣)



【学生の感想①】  
今回の取材を通して、介護だけではなく様々な事業に取り組んだり、新たな試みをしている施設が多いことを知りました。障子の張り替えなど私の考えている介護とは違うサービスをされており、驚きましたが、この地域貢献も介護の魅力の1つだと感じました。施設によって違いはありましたが、どのスタッフさんに聞いても、「愛情をもって接すること」が大切だおっしゃっており、今まで以上に愛情を持って介護をしたいと思いました。私は介護福祉士の道に進んでよかったと思える取材でした。(津田)

【学生の感想②】  
スタッフの方に、施設で取り組んでいることや気を付けていることなどを伺い、施設ごとに力を入れていることは違いましたが、大切にしていることは同じように感じました。それは利用者の方一人一人に寄り添い、利用者のために一生懸命になつてことです。また助け合いは大切ですが、現場では「当たり前」という言葉を聞き、私も「当たり前」にできるようにになりたいと感じ、そのためには身近な家族や友人に心配りすることから始めていきたいと思えます。今回の取材の同行の学びを将来に活かしていきます。(志田)